



ふくおか[Good]農業人100
 主な農産物／イチゴ(あまおう)

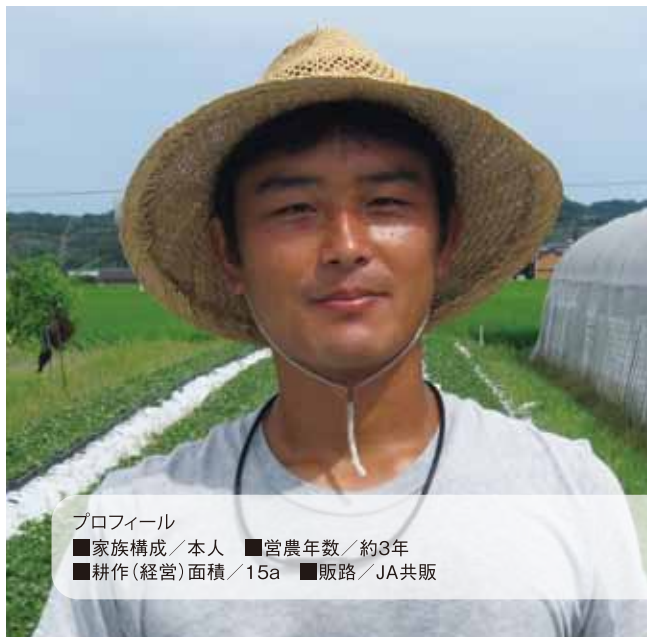
浅井 修さん (34歳) (営農地／糸島市板持)

農学から農業の世界へ

《就農のきっかけ》

植物に携わる仕事がしたい

「大学時代は、卒業論文・修士論文・博士論文すべてで植物の蒸発散について研究してきました。知り合いのトマト農家のハウスで実験しながら、アルバイトで農作業もしていました。また、大学の研究圃場のハウスを借りて、トマトの実験もしていました。そのような長い研究生活の中で、植物に携わる仕事がしたいと考えようになっていました。」と語る浅井さん。その道は研究職、農業高校教師、就農の3つでした。しかし、大学卒業直後に就農するには資金的に無理がありました。奨学金の返済もあるので、まずは収入を得ることが第一でした。縁あって博士課程在籍時に農業高校の教壇に立つことがあり、その延長線で修了後も同校で講師として勤めましたが、その間に、将来は教えるよりも自分で農業をしたいという思いが徐々に強くなっていきました。講師となって3年目から就農の道を模索し始め、4年間の講師勤めの後32歳で就農しました。



プロフィール

■家族構成／本人 ■営農年数／約3年
 ■耕作(経営)面積／15a ■販路／JA共販

《これまでの過程》

恵まれた就農環境に感謝

就農当初は、トマト栽培を計画しましたが、スタートは、地主さんがイチゴを40年以上栽培していたことや資材がすべて揃っていること等を考慮し、地主さん了承のもとイチゴ栽培を教えて頂きました。1年目は、地主さん夫妻とマンツーマンで栽培方法からパック詰めまで教えて頂きました。何しろイチゴ栽培は未経験であったため、作業が後手に回り、人より一歩も二歩も作業が遅れました。2年目は、前年の経験をもとに作業日誌を見ながら適期に作業を行うことができました。途中、地主の奥さんから株の草勢管理を助けて頂きましたが、パック詰めは一人で行うことができました。現在3年目ですが、将来、規模拡大して従業員を雇う際に、雇い主が確固たる技術を持っていないといけなと考え、全ての作業を自分自身で行うなど、経験をさらに積んでいきたいと思っています。



《これからの展望》

本格的な農家を目指して

今は農地を借りて農業に従事しています。地主さんからは、大学で学んだこととは違った「農」に関することを色々教えて頂きました。今後は自分の農地を確保し、ハウスを建て、教えて頂いたことを基に、新たな自分なりの農業を目指していきたいと思っています。「これから数年経過すれば、ある程度のイチゴ栽培について、農業を志す人に教えることもできるようになると思います。また、今後は、規模拡大や夏野菜の栽培も視野に入れていきたいとです。」と語ってくれました。

Good 成功のためのポイント

就農の仕方によっては、稀に初期投資がほとんど不要な場合もありますが、思っている以上に農業にはお金が必要です。公的機関から支援してもらう方法もありますが、就農時点で支援が100%可能かということは不透明です。できる限り、自分で十分な資金を作って臨みたいですね。